

3月5日（月曜日）

第2日目

平成30年 3 月 5 日（月曜日）

議事日程第 2 号

平成30年 3 月 5 日（月曜日）

開 議 午前10時

第 1 一般質問

質 問

応 答

散 会

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

1. 富 樫 孝 君

(1) 引欠川の呼称について

- ・ 呼称を昔から地区で使用されている「ヒカゲガワ」にしてもらうにはどうしたらよいか

(2) ハチ公の駅（仮称）について

- ・ グッズの販売やハチ公・秋田犬の資料展示と一緒にDVDの上映などもあるとい
いのではないか

(3) 敬老会について

- ・ 送迎を行政でやってほしい

(4) 交通指導員の確保について

- ・ 魅力があれば応募がふえるのではないか

(5) 除雪と道路補修について

- ・ 除雪の作業手順について業者としっかり打ち合わせをしてほしい

2. 佐 藤 芳 忠 君

- ・ 障害のある子供を持つ親御さんたちは、いつも親亡き後の子供の生活を心配してい
る。相談や日常生活訓練や通所等の支援が連携して行われるような施設の設置を望ん
でいる

3. 日 景 賢 悟 君

(1) 市の観光戦略に顧客ターゲットの絞り込みを

- ① 台湾を代表する国に焦点を当てた売り込みに少々違和感を持っている

- ② どのようなサービスを誰に提供すれば満足できるのかを徹底的に分析することが何より必要
 - ③ 今は少ない顧客に徹底的に満足してもらおうサービスを提供すべき
 - ④ 東京や首都圏といった漠然としたプロモーションに費用と人材を投入せず、大館と歴史的に交流が深い渋谷区との交流と連携強化が鍵になる
 - ⑤ ピンポイントマーケティングを進めてほしい
- (2) 「ハチ公の駅」をつくる意義と、今後の活用の位置づけをしっかりと固めるべきではないか
- ① この施設をつくる意義をあえて今、市長に伺いたい
 - ② 秋田犬のミュージアムと土産物売り場がある愛犬家が集まる施設という認識だけが広がっているのではないか
 - ③ 大館と渋谷、大館と世界が秋田犬を媒体としてつながるための施設でなければならぬと認識している
 - ④ ハード的な役割に限界はあるかと思うが、他地域との交流の場としての機能やサテライト機能など、ソフト面の充実に限界はない
- (3) ふるさと納税の使途・目的のうち、育児や教育に関するものは具体化・明確化すべき
- ・ 使途・目的を具体化・明確化することによって、ふるさと納税の寄附額もふえ、人口減少の課題解決にもつながる

4. 田村 儀光 君

- (1) 福原市政について
- ・ 3年間で振り返っての感想
 - ア. 常に全力で頑張っているのはわかるが、一旦立ちどまる必要があると思う
 - イ. 都市再興基本計画のアンケート結果を見た市長の感想は
 - ウ. 人口減少対策、特に自然減への取り組みが弱かったと思う
- (2) 平成30年度予算について
- ① 必要な施策には借金をしても予算をつけるべきと思うが、それを加味した上でのバランスのとれた予算なのか
 - ・ 重要施策は何か
 - ② 大館版C C R Cの考え方
- (3) 扇田病院着服問題について
- ① 警察（刑事事件）の進捗状況は
 - ② 民事裁判の内容の公開はできないのか

5. 佐藤 健一 君

- (1) 少子化対策、子育て支援について
 - ・ 大館版ネウボラについて
- (2) 農業対策について
 - ① 大館産米のトップセールスについて
 - ② あきたこまちにかわる新品種の開発状況は
 - ③ 五百川の販売状況は
 - ④ 重点品目、枝豆の今後について
- (3) 世田谷区との交流について
 - ・ 木村泰治氏ゆかりの世田谷区との交流を進める考えはないか

6. 藤原 明 君

- (1) JR扇田駅前にトイレ設置の要望が多いが
 - ① 大館市としてJR側と協議を進めてほしい
 - ② JR側と協議が不調の場合には、市単独でも設置の方向で検討してほしい
- (2) 大館市の公園遊具について
 - ① 遊具の更新・整備計画は策定されているのか
 - ② 安全・保守点検などは、どのように行われているのか
- (3) 達子森野球場の課題について
 - ① 駐車場が少なく狭い理由から高校野球大会の開催が見送りになっている現実を把握しているのか
 - ② 駐車場拡張整備計画の考えについて

出席議員（28名）

1番	石垣博隆君	2番	日景賢悟君
3番	武田晋君	4番	小畑淳君
5番	虻川久崇君	6番	中村弘美君
7番	畠沢一郎君	8番	伊藤毅君
9番	阿部文男君	10番	小棚木政之君
11番	藤原明君	12番	田村儀光君
13番	佐藤久勝君	14番	仲沢誠也君
15番	斉藤則幸君	16番	小畑新一君
17番	明石宏康君	18番	佐々木公司君
19番	吉原正君	20番	佐藤健一君
21番	田中耕太郎君	22番	相馬エミ子君
23番	岩本裕司君	24番	佐藤眞平君

25番 富 樫 孝 君
27番 佐 藤 芳 忠 君

26番 菅 大 輔 君
28番 笹 島 愛 子 君

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市	長	福 原 淳 嗣 君
副 市	長	名 村 伸 一 君
総 務 部	長	北 林 武 彦 君
総 務 課	長	阿 部 稔 君
財 政 課	長	桜 庭 寿 志 君
市 民 部	長	成 田 政 則 君
福 祉 部	長	安 保 透 君
産 業 部	長	一 関 雅 幸 君
建 設 部	長	嶋 田 均 君
会 計 管 理 者		目 時 俊 一 君
病 院 事 業 管 理 者		佐々木 睦 男 君
市立総合病院事務局長		斎 藤 進 君
消 防 長		三 浦 勝 彦 君
教 育 長		高 橋 善 之 君
教 育 次 長		佐々木 修 君
選挙管理委員会事務局長		小 林 淳 一 君
農業委員会事務局長		三 澤 勝 君
監 査 委 員 事 務 局 長		金 子 広 英 君

事務局職員出席者

事 務 局	長	萬 田 清 一 君
次	長	畠 沢 昌 人 君
係	長	長 崎 淳 君
主	査	伊 藤 雅 孝 君
主	査	高 橋 琢 哉 君
主	査	北 林 亘 君

午前10時00分 開 議

- 議長（佐藤久勝君） 出席議員は定足数に達しております。
よって、これより本日の会議を開きます。
本日の議事は、日程第2号をもって進めます。
-
-

日程第1 一般質問

- 議長（佐藤久勝君） 日程第1、一般質問を行います。
一般質問の質問時間は、再質問を入れて1人40分以内と定めます。
質問通告者は12人であります。
質問の順序は議長において指名いたします。
なお、この際、質問者に申し上げます。質問制限時間10分前に予鈴1つ、5分前に予鈴2つをもってお知らせいたしますので、よろしく御協力をお願いいたします。
さらに申し上げます。再質問から一問一答方式で行われる方は、再質問の冒頭、必ず自席で申し出をした上で、一般質問要旨の大項目単位で同一議題をまとめて行うよう申し上げます。
なお、同一議題についての質問は、再々質問までとなりますので、徹底されますよう御承知おき願います。
-
-

- 議長（佐藤久勝君） 最初に、富樫孝君の一般質問を許します。

〔25番 富樫 孝君 登壇〕（拍手）

- 25番（富樫 孝君） おはようございます。新生クラブの富樫孝です。初めてのトップバッターで多少緊張しておりますが、気分がよいものです。さて、平昌オリンピックは2月25日をもって17日間の幕を閉じました。御承知のように日本勢はメダルを13個獲得する活躍であり、冬季オリンピックでは最多の獲得数となりました。日本とは時差のない国でのオリンピックでしたが、どうして夜遅くに決勝を行うのだろうかと思いつつ夜更かしをしてしまいました。そのかいあってメダルラッシュを目にし、感動を共有することができ、とてもうれしく思いました。私はカーリングが好きで特に女子のカーリングは欠かさずに見ました。銅メダルが決まった瞬間は「やった」と叫んでいました。選手たちが幼いころからカーリングをしてきた北見市常呂町は何もないところだそうですが、今回の銅メダル獲得により、ふるさと納税の申し込みが殺到したようです。大館市にも大輪の花を咲かせるつぼみがどこかに隠れているかもしれません。そして、それを探して育てるのも私たちの役目だと思います。また、女子フィギュアスケートの金メダリスト、ロシアのザギトワ選手が秋田犬を欲しがっているとの報道がありました。県や市の観光課でもグッズを早速送ったようでジャストタイミングだったと思います。秋田犬に携わる者の一人として大館市を大いに宣伝してほしいと願っております。少し

前段が長くなりましたが通告に従いまして5点について質問いたします。

1点目は、**引欠川の呼称**についてであります。比内地域から流れてきて板沢で米代川に合流する支流であり、私が住む真中地区では昔から「ヒカゲガワ」と呼んでおりますが、行政の呼称は「ヒッカケガワ」のようです。私が卒業した真中中学校の校歌に出てくる呼称は「ヒカゲガワ」となっておりました。川の呼び名が行政と違うため、地域ではとても違和感があるというのが実情です。かかわりのない人たちにとってはどうでもよいと思われるかもしれませんが、行政の呼称を昔から地区で使用されている「ヒカゲガワ」にさせていただくにはどうしたらよいか伺います。

2点目は、**ハチ公の駅（仮称）**についてです。駅の中にハチ公や秋田犬の資料を展示する予定があるか伺います。2月10日、11日に行われた大館アメッコ市において秋田犬の人気は大変なものでした。私は秋田犬のパレードで秋田犬を連れて先頭を歩きましたが、「さわらせて」「写真を撮らせて」などの声がかかり、なかなか前に進めないこともありました。どこから来られたのかを尋ねると東京や横浜などの関東圏、さらにはオランダや韓国・中国など海外の方もいらっしゃいました。秋田犬会館は日曜日が休館日のためグッズ販売などもできず、せっかく大館に来られた観光客に不便をかけているのが現状です。つきましては、ハチ公の駅（仮称）での**グッズの販売やハチ公・秋田犬の資料展示と一緒にDVDの上映などもあるといいのではないかと**考えますがいかがでしょうか。

3点目は、**敬老会**についてです。敬老会の出席率は年々減少傾向にあり、去年は市内14地区の15会場で開催され、出席率は26.1%、前年度から117人、1.1ポイント減ということでした。私は以前もこの件について一般質問しておりますが、そのときの答弁は出席率を上げるために地域の婦人会の皆さんと相談するというものでありました。婦人会の皆さんから御意見を伺うと、**送迎を行政でやってほしい**とのことでした。比内や田代地域では送迎バスが出ています。ほかの地区でもバスやハイヤーの送迎があれば出席者もふえてくると思いますので一度試してみてはいかがでしょうか。今のまま77歳を敬老会の参加年齢としていく場合、団塊の世代が敬老会への参加対象になるのが5～6年後となり、敬老会対象者数は激増すると思われます。しかし、行きたくても足がなくて行けないという方も多くなるのではないかと危惧されます。そのようなことのないよう対策を考えていただきたいと思えます。

4点目は、**交通指導員の確保**について伺います。交通指導員や防犯指導員は、大館市の特別公務員という扱いであり、大館市で行われるイベント等で活動しております。大きなイベントとしては夏の暑い盛りの大文字祭り、真冬の比内とりの市や大館アメッコ市などですが、来場者が交通事故や犯罪に巻き込まれることのないよう守ってくれております。特に冬のイベントでは、雪や寒さの中での活動であり大変な御苦勞であったと思えます。最近の北鹿新聞に交通指導員の募集記事がありました。苛酷な状況での活動もあるため、隊員のなり手がいるか心配しているところですので。私も交通指導隊に在籍していたことがあるため、活動に対しての理解は

持っているつもりです。大変なこともありましたが、やりがいがあり、たくさんの仲間たちと知り合うことができ、私にとってはかけがえのない経験でした。若い人たちは、ボランティア活動は定年退職してからという方が多く、定年前の年齢でのなり手が少ないのが現状と思います。ただ漠然と隊員を募るばかりではなく、退職金制度を取り入れるなど目標を持ってもらえて制服や装備等がきちんとしているなど、**魅力があれば応募がふえるのではないか**と思います。隊員になりたいと思う方が多くなることを願っております。

5点目は、**除雪と道路補修**について伺います。3月に入りますと春の気配も少しずつ感じられるようになり、気分的にも春のときめきを覚えるようになります。真冬の間は除雪のお願いを何度もしました。除雪を担当している方や業者の方は本当に御苦労さまでした。感謝申し上げます。ただし、万全を配したつもりでも苦情はあります。私に寄せられた住民の声を述べたいと思います。以前、一般質問でも取り上げさせていただいたのですが、マンホール部分の雪が解け、大きな穴のあいた状態になり、そこにタイヤがはまると車体の底がこすれ、損傷を与えたりすることがあります。市街地ではマンホールのふたの裏に発泡スチロールのようなものを取りつけて、マンホールの表面の雪解けを抑えているようです。しかし、農村部ではまだその取りつけが進んでいないようすがいかがでしょうか。また、暖気になって雪が緩むと車が走れなくなることがあるため、底からしっかりと除雪をしてほしいと思います。さらに、先に歩道の除雪をしてしまうと車道の雪の塊が歩道に押し入れられ、歩けない状態になり再び歩道の除雪をすることがあるため、無駄な作業が発生しないよう車道の除雪をした後に歩道の除雪をするなど、**除雪の作業手順について業者としっかり打ち合わせをしていただきたい**と思います。移住人口や交流人口をふやすためにも道路事情が悪い大館市の冬は生活しづらいと思われたいよう、しっかりと除雪を行っていただきたいと思います。また、雪解け後の路面の補修も滞りなく行っていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この3月末で退職されます皆様におかれましては、長い間本当に御苦労さまでした。これまで大館市のために頑張ってくださいましてありがとうございます。健康に十分留意されまして、これからも大館市のためにお力添えをいただきますようお願いしまして質問を終わります。ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの富樫議員の御質問にお答えいたします。

1点目、引欠川の呼称について。地元と行政で呼称が違う。地元での呼称に直せないのかについてであります。引欠川の呼称につきましては、国土交通省が定めている河川コード表に「ヒツカケガワ」と記載されていることから河川管理者である県、また、当市におきましてもこれに倣っております。しかしながら議員御指摘のとおり、行政と地域の方々とで呼び方が違うことにより、災害時の連絡などで不都合が生じる場合もあるかと思われたいです。まずは、川沿いにお住まいの方々や字名に用いられている八木橋・二井田・小袴などの地域の方々に呼び方

を確認させていただいた上で「ヒカゲガワ」とすることについて、河川管理者である県とも協議してまいりたいと考えております。

2点目、**ハチ公の駅（仮称）**について。秋田犬やハチ公の資料を展示してDVDも映すようにするにはついてであります。まずもって富樫議員におかれましては、日ごろから秋田犬の保存・育成や各種イベントなどに御尽力・御協力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。先ほど議員御自身の体験として、大館アメッコ市における秋田犬を連れての散歩のお話を披露していただきましたが、私自身、銀座で同じことをして動けなくなるくらい人に囲まれた経験があります。やはり、秋田犬は強力なPRの武器になると実感いたしました。しかし、残念ながら私の銀座での散歩の場合は、次の日に産業部長が築地署に呼ばれて始末書を書かせられるということにまで発展してしまい、きちんと場所を考えて散歩をしなければならないと実感しました。それぐらい秋田犬は大館のみならず秋田県全体をPRするキラークンテンツになり得るものと実感したところでもあります。また、アリーナ・ザギトワ選手が秋田犬を欲しがっているとお褒めのお言葉をいただきましたことにも重ねて感謝申し上げます。連日、NHKのみならず民放でも放映されまして、忠犬ハチ公の銅像の里帰りに言及したときの反響の10倍以上の問い合わせが私にもありました。こういったものを一つの物語としてきちんと分析して使っていくことが必要だと思います。そのような意味においてハチ公の駅（仮称）は、秋田犬を核とした観光拠点施設として、秋田犬と直接触れ合えるコーナーのほか、議員御提案の秋田犬やハチ公の資料展示、動画の上映、グッズなどの販売も予定しております。ハチ公の駅は「忠犬ハチ公のふるさと・おおだて」を紹介し、秋田犬を知り、秋田犬と触れ合うことにより、犬好きの方はもとより、国内外を問わず多くの方が楽しめる施設として整備してまいりたいと考えております。

3点目、**敬老会**について。**送迎だけでもできないか**についてであります。市では、多年にわたり社会の発展に寄与した方々を敬愛し、その長寿を心から祝福するとともに、長く健康で過ごされることを祈念して敬老会を開催しております。議員御案内のとおり、高齢化率の上昇とともに敬老会の対象者は年々ふえ、平成29年度の対象者は1万2,115人でありましたが、参加者は3,162人、参加率は26.1%と減少傾向にあります。開催に御協力いただいております婦人会や町内会などの方々からも参加率を上げるためには参加者の送迎に支援が必要ではないかといった御意見をいただいております。敬老会は、各地区の婦人会や町内会に市が委託する形で開催しており、対象区域が広い比内地域や田代地域では、委託料の範囲内でバスを運行し参加者の送迎をしております。一方、その他の地区では、御家族や近所の方による送迎や町内会などの援助によりマイクロバスやタクシーでの送迎を行っているところもあり、その地区ごとに工夫していただいているところでもあります。市としましても、地区ごとに異なるニーズを踏まえつつ、より多くの高齢者の方に参加していただけるよう、委託料の柔軟な活用をお願いしながら婦人会や町内会などの方々と御相談してまいりますので御理解をお願いいたします。

4点目、交通指導員の確保について。なり手が少ないが、魅力ある方法を考えるにはについてであります。まずもって富樫議員におかれましては、御自身の交通指導員としての経験談を、そして交通指導員の魅力をお話ししていただきましたことに感謝申し上げます。市では現在、47人の交通指導員が市民を交通事故から守るため、各地区の通勤・通学路における街頭指導、幼稚園等での交通安全教室、さらには市で行われる各種行事での交通整理などの活動を行っております。今年度の入隊状況につきましては、昨年度退職した3人の後任として4月から新たに3人の方が入隊し、また、年度途中で欠員となった2人についても、先ごろ新たに2人の方に入隊していただくことができました。この3月末には、7人の方々が定年等で退職する予定となっていることから新聞や広報等で募集しているところであります。指導員の報酬につきましては、条例に基づいて月額報酬と出勤に応じた旅費を支給しており、県内各市町村の平均報酬額とほぼ同額となっております。なお、地方自治法の規定上、非常勤の職員である交通指導員に対する退職金の支給は認められておりませんので御理解をお願いいたします。一方、制服などの装備品につきましては、県内で統一された品目を貸与することとしており、新たに指導員になった方には新品を貸与しているほか、毀損等の申し出があった場合には適宜貸与品の交換をしております。市としましては、今後さらに高齢者が増加していく中、交通弱者である子供や高齢者の交通事故を防止するために指導員を確保することが重要であると考えております。そのため、引き続き待遇の改善について検討するとともに、市の広報等を通じて交通指導員の職務に関心を持ち、魅力を感じていただけるように活動内容等を情報発信してまいりたいと考えております。

5点目、除雪について。手順については、業者としっかりと打ち合わせをすべきについてであります。今冬は、例年より一月早く12月初めから本格的な降雪となり、2月末現在の累計降雪量は490センチメートルと昨年度の累計降雪量318センチメートルを大幅に上回っており、委託業者の7割以上が除雪に出動した回数も3地域合わせて44回となっております。議員御指摘のとおり、降雪量が多くなると道路が圧雪状態となり、下水道のマンホールの上が内部の熱で解け、段差が生じ通行に支障を来すことがあります。対策としては、融雪を抑制するふたの設置が有効であることから現在、交通量の多い箇所などを中心に順次設置しており、設置率は約2割となっております。引き続き計画的に設置を進めるとともに、設置するまでの対策として、段差が著しくなる箇所には土のうなどを置くことで通行の安全確保に努めてまいります。また、道路が圧雪状態になると暖気で緩みが発生することから除雪時には底からしっかりと起こす作業に努めるとともに、緩み発生時においても出動を指示し、車両や歩行者の通行障害の解消に努めてまいります。一方、除雪作業の時間帯のずれにより、車道を除雪した雪が除雪後の歩道に置かれてしまうことが一部に見られます。歩道と車道の除雪業者が異なっている箇所で見受けられますので業者間で作業時間の調整を行うよう指導してまいります。市民の皆様はもちろん、移住を考える方や本市を訪れる方々にとっても、冬期間の道路事情は気がかりとなること

ろでありますので、今後も除雪車運行管理システムや降雪センサーなどを活用し、きめ細かな除雪に努めるとともに、融雪後の路面補修につきましても万全の体制を整えて対応してまいります。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○25番(富樫 孝君) 議長。

○議長(佐藤久勝君) 25番。

○25番(富樫 孝君) 1点目の引欠川の呼称については、川沿いの地域の皆さんからも確認するとのことでしたが、その地域に板沢も入れていただくようお願いいたします。以上です。

○議長(佐藤久勝君) 次に、佐藤芳忠君の一般質問を許します。

[27番 佐藤芳忠君 登壇](拍手)

○27番(佐藤芳忠君) 平成30年3月、第5期大館市障害福祉計画及び第1期大館市障害児福祉計画が策定されます。この計画は、障害のある人が地域の中で人格と個性を尊重され、障害の有無にかかわらずお互い支え合い安心して充実した生活を送ることができるように、平成30年度から32年度までの数値目標を設定し、地域において必要な障害福祉サービス等及び障害児通所支援等各種サービスが計画的に提供されるよう策定するものです。この計画では、5つの福祉施策を達成すべき基本的な目標としています。1つ目は、福祉施設入所者の地域生活への移行です。これは、入所者の重度化や高齢化により、自宅やグループホームなど地域生活への移行者数が減少傾向にあるため、障害福祉サービスの機能強化や地域生活支援拠点等の整備を図り地域生活への移行をふやすものです。2つ目は、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築です。これは、障害者が地域で安心して暮らすことができるように、関係者が情報を共有し連携できる体制を構築するための協議の場を設置するものです。3つ目は、福祉施設から一般就労への移行です。これは、福祉施設利用者の一般就労への移行を進めるものです。4つ目は、障害児支援の提供体制の整備等です。これは、児童発達支援センターひまわりを中核とし保育所等訪問支援をさらに充実させるとともに、支援が困難な状況にある重度心身障害児や医療的ケア児については、障害者自立・差別解消支援協議会が協議の場の設置を検討し、重症心身障害児が身近な地域で支援が受けられるように調査し関係機関に情報提供するものです。障害児については、乳幼児期から学校卒業まで一貫した効果的な支援の提供体制をさらに充実させるため、保育や教育機関等と連携し検討するものです。以上の4つは、いずれも施設や病院から地域への移行と地域での生活支援を目標としています。最後の5つ目は、地域生活支援拠点等の整備です。これは、現在障害者の生活を支えている親や家族が亡くなっても、残された障害者やその家族が地域で安心して生活できるように、障害者が気軽に集まり交流できる場を設置し、次の項目について検討し整備していくとしています。その項目とは、1. 障害者などからの相談への対応と各相談事業所

との連携、2. 医療機関などとの連携と緊急時の受入確保、3. グループホームなど障害福祉サービスの提供や体験利用、4. 障害児・障害者の重度化や高齢化へ対応できる人材の確保と育成、5. 様々なサービス提供体制などです。北秋田市では、平成19年に北秋田市障害者支援センターを設置し、障害者やその御家族等からの相談に応じ必要な情報を提供し、障害者の自立と社会参加の促進を目的として身だしなみや家事援助など日常生活上必要な援助を行っています。しかし、当市は餌釣の身体障害者福祉センターと田代の障害者生活支援センターが地域活動支援センターとして、知的・身体・精神の3障害者に対し地域生活支援事業を行っていますが、創作的活動や生産活動の提供が主であることと、交通の便が悪いことなどから障害のある子供を持つ親御さんたちは何年も前から「障害のある子を自宅で暮らさせたいので北秋田市のような支援センターをつくってほしい」「親が亡くなった後のことを考え子供を施設に入れようとしたが、集団生活ができず施設に入ることができなかったため、地域で暮らせることにしたが毎日通える施設がないため、北秋田市のような支援センターをつくってほしい」と、北秋田市のような支援センターの設置を市に要望してきました。相談に関しては平成26年4月に基幹相談支援センターが設置されましたが、自立と社会参加のための日常生活訓練などを行う施設については、いまだ設置されていません。国の施策で脱施設化が進んでいる現在、**障害のある子供を持つ親御さんたちは、いつも親亡き後の子供の生活を心配しています。**「ひとりで買い物し御飯をつくれるだろうか」「ひとりで掃除し洗濯できるだろうか」「周りの人とうまくやっていけるだろうか」と心配しています。そして、ひとりで生活できるようになるための生活訓練の場と交流の場を求めています。相談と生活訓練等が一括して行われる施設の設置を望んでいます。先ほど述べたように市は、第5期大館市障害福祉計画及び第1期大館市障害児福祉計画で、基幹相談支援センターや多機能拠点整備型施設などが一体となり相談支援や体験、日中活動などを行う地域生活支援拠点を整備しようとしています。障害のある子供を持つ親御さんたちは、地域包括支援センターやデイサービスセンターがある交通の便のよい場所に基幹相談支援センターが移り、**相談や日常生活訓練や通所等の支援が連携して行われるような施設の設置を望んでいます。**そのような地域生活支援拠点の整備について、市長のお考えをお聞かせください。最後に、28年度に実施したアンケートに書かれていた障害児の親の声をお聞きください。「学校や社会に適応していけるだろうか」「本人の将来が心配です」「社会に出てから生活を支えてくれる支援を求めます」「今は親が元気なのでいいが、この先どうするのだろうかという不安があります」「親が元気なうちはいいが、一緒にいられなくなったときに心配です」。

以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤芳忠議員の御質問にお答えいたします。

「親亡き後も障害のある子が安心して暮らせるように、相談や生活訓練や通所等の支援が一

一括して行われるような施設を整備してほしい」との声への対応についてであります。市ではこれまで、障害者等の地域生活を支援するため、平成19年度を初年度とする第1期から今年度を最終年度とする第4期までの障害福祉計画に基づき、相談支援の向上を図る基幹相談支援センターの設置や地域での生活を送るグループホームの整備のほか、日中の活動支援などの障害福祉サービスの充実に努めてきたところであります。また先月、精神障害を持つ方々の就労支援事業所を訪問させていただいたところであります。イベントなどに出品・販売する木工品や手芸品などの製作作業を見学させていただきました。特に、木工品・手芸品をつくった本人と直接話をするのができたことは貴重な体験であったと考えております。ブローチや木工品については、才能を持った方々が非常に多く、作品一つ一つに関して談笑することができ、非常に貴重な体験をさせていただいたところであります。また、理事長や現場のスタッフから運営上の御苦勞などを伺い、特に現場のスタッフにおいては使命感を持って仕事をしている分、精神的な御苦勞も非常に多いことを市長として実感させていただいたところであります。障害のある方が地域に出て、作業をしながら一日を過ごす施設の必要性、重要性を改めて認識したところであります。議員御紹介のとおり、現在、30年度から32年度までの3年間を期間とする第5期大館市障害福祉計画・第1期大館市障害児福祉計画について、国が定める基本的な指針に即し策定を進めております。本計画では、障害のある方の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、地域で安心して自立した生活ができるよう、基本目標の一つとして地域生活支援拠点等の整備を行うこととしております。地域生活支援拠点等は、緊急時における迅速・確実な相談体制や短期入所等の活用などによる支援、また、グループホームの入所体験を通じて、施設や親元からグループホーム、ひとり暮らしへの生活の場の移行のための支援体制の確保を目的としております。地域生活支援拠点等の整備に当たっては、介護サービスなど障害福祉以外のサービスを含めた社会資源の活用を検討するとともに、新たに緊急時の受け入れや日中活動の体験の場・交流の場などを整備し、それぞれの機能を連携させて支援を行っていきたいと考えており、要望の声がある支援が一括して行われる施設整備と方向性は同じものであると考えております。今後は既存の公共施設の活用も視野に入れ、関係する機関・団体からの意見を伺いながら検討してまいりたいと思います。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○27番(佐藤芳忠君) 議長、27番

○議長(佐藤久勝君) 27番。

○27番(佐藤芳忠君) 釈迦内の施設には、私もできたばかりのときに行ってきました。市長がおっしゃるとおり、すばらしい施設で皆さん一生懸命頑張っていますが、ただ、非常に交通の便が悪い。それが市役所のそばやバス停のすぐそばにあれば、もっと利用できる方がおられると思います。ですから私は、日常生活上において、このように通える施設というのは交通の便がよいところを一番先に考える必要があると思います。市長は既存の施設を活用するとおっ

しゃいましたが、今回の障害福祉計画の地域生活支援拠点の整備の中には、包括支援センター・デイサービスセンター・相談支援センターがあり、日常生活訓練や普通の作業訓練などを、大きい意味では大館市全体で、もう少し小さい意味では市内各地区で一括で行われることを国はきちんと目標として出すよう指導していますが、私が言ったのはもっと狭い意味で、つまり一つの建物の中で包括支援・デイサービス・基幹相談支援ができて、障害児や障害者、そして高齢障害者のデイサービスや相談ができるような施設を交通の便がよいところにつくっていただきたいとお願いしています。そして、私が知る限りでは、もしこのような地域生活支援拠点が一つの施設の中にできるということであれば、日本でも初めてのことだと思えます。それらが一つの施設にまとめれば、模範となる施設だと思っていますので、ぜひ、早急に整備の検討をお願いするものです。よろしくお願いします。

○議長（佐藤久勝君） 暫時、休憩いたします。

午前10時47分 休 憩

午前10時47分 再 開

○議長（佐藤久勝君） 次に、日景賢悟君の一般質問を許します。

〔2番 日景賢悟君 登壇〕（拍手）

○2番（日景賢悟君） 平成会の日景賢悟でございます。通告に従いまして3点の質問をさせていただきます。

最初は、**市の観光戦略に顧客ターゲットの絞り込みを**についてであります。まずは、他地域との連携や交流、秋田犬を中心に据えた国内向け観光事業やインバウンド戦略などの観光事業は、ある程度の時間をかけ交流することでお互いの信頼関係を構築しなければ効果が出ないものではありますが、福原市政になってから過去3年間のあらゆる方面への働きかけと政策が着実に実を結びつつあることを日々の生活やニュースなどで実感しております。これは紛れもなく福原市長の方針を観光課やDMOの職員の皆様が形にしようと努力した結果のたまものであり、その姿勢に敬意を表したいと思っております。今後も、ぜひこの流れを継続し進んでほしいと考えております。一方、私は現在県や市が行っている**①台湾を代表する国に焦点を当てた売り込みに少々違和感を持っております**。なぜなら今は、県も大館市も主に台湾をメインターゲットにしておりますが、現在の台湾の人口は約2,355万人で日本の人口の約5分の1しかなく、年齢構成比も日本とほぼ同じであり、今後日本のように少子高齢化が加速的に進むことが予想されていることや、親日国という理由で全国各地の自治体が台湾をターゲットにしている、いわゆるレッドオーシャン市場であり、当市にとっては不利な条件になると感じているからであります。一方、大館が持つ食・文化・教育・秋田犬・曲げわっぱなどの素材は全て一級品であり、この価値はまさしく過去と現在の大館びとが大切に培ってきた財産であり、歴史と

文化に裏づけされたものであります。この大館が持つ強みと価値を理解できる人や顧客層に絞って売り込む手法が有効であると考えます。そこで今後必要になるのがペルソナ戦略です。例えば、秋田犬が好きな愛犬家をメインターゲットとするならば、年齢・性別・居住地・勤務先・年収といった定量的データだけではなく、さらに来てほしい人物像の価値観・趣味・ライフスタイルまでもイメージ設定するのがペルソナ戦略であります。この戦略で考えると、ターゲット顧客は台湾のみならずシンガポールや香港を初めとした東南アジアに点在していると想定でき、プロモーション方法も違ってくるはずです。そのため、まずは各国からイメージに合った顧客やブロガーを数人招き、②どのようなサービスを誰に提供すれば満足できるのかを徹底的に分析することが何より必要かと考えますし、③今は少ない顧客に徹底的に満足してもらうサービスを提供すべきです。同じく、国内においては④東京や首都圏といった漠然としたプロモーションに費用と人材を投入せず、大館と歴史的に交流が深い渋谷区との交流と連携強化が鍵になるはずで、また、渋谷区との交流においては、どこと何を結ぶのかといった絞り込みが必要だと考えます。以上のようにペルソナ戦略を用い顧客に焦点を当てた⑤ピンポイントマーケティングを進めていただきたいと考えておりますが、市長の所見をお伺いいたします。

次に、「ハチ公の駅」をつくる意義と、今後の活用の位置づけをしっかりと固めるべきではないかについてであります。いよいよ工事が始まろうとする段階になり、将来の大館駅改築も含め玄関口としての大館駅前のイメージが一新されることを期待しております。そこで、改めて①この施設をつくる意義をあえて今、市長に伺いたいと思います。ハチ公の駅というネーミングもあってか秋田犬が前面に出過ぎていて、②秋田犬のミュージアムと土産物売り場がある愛犬家が集まる施設という認識だけが広がっているのではないかと感じております。私はハチ公の駅は、③大館と渋谷、大館と世界が秋田犬を媒体としてつなげるための施設でなければならないと認識しておりますので大館びとだけの視点ではなく、渋谷や世界から見た視点でこの施設に必要な機能を充実させるべきだと考えております。施設の建設には相当の費用がかかり、今後の維持費も負担になることが想定され、④ハード的な役割に限界はあるかと思いますが、他地域との交流の場としての機能やサテライト機能など、ソフト面の充実に限界はないと思っています。よって、これからできる大館駅は地政学的には北東北の中心としての機能を備えた役割と位置づけにならなければなりませんし、ハチ公の駅は過去と未来が融合する縦軸と、現在の大館と世界がつなげる横軸との結節点という意義と今後の活用策を固めるべきだと考えております。つまり、ハチ公の駅のコネクトは秋田犬ではなく、交流と融合の結節点だと認識しておりますが、これについての市長の見解をお伺いいたします。

最後に、ふるさと納税の使途・目的のうち、育児や教育に関するものは具体化・明確化すべきについてであります。平成29年度の寄附額が5億5,000万円に届きそうだと報告を受け、この実績と関係職員の皆様の御努力に敬意を表したいと同時に、ここで満足することなくふるさと納税日本一を目指して頑張してほしいと思っております。この質問は、議員になって最初

に質問した内容と同じことの繰り返しになってしまいますが、その後もふるさと納税の使途・目的がいまだに漠然としており、もっと明確でわかりやすく具体的な使途・目的を設定することによって、ふるさと納税額の増加とまちづくりへの相乗効果がさらに期待できると信じておりますので再度質問する次第であります。北海道上士幌町は、ふるさと納税の寄附金を活用して平成28年度から認定こども園の利用料を向こう10年間無料にする政策を行うことにより、近隣市町村のみならず、道外からの子育て世代の移住にもつながっています。この町の取り組みは、より具体的で明確な使途・目的を設定することにより、ふるさと納税がふえ、若い子育て世帯が移住するという好例であります。また、先日行われた商工会議所役員と商工会議所所属市議会議員の懇談会の中において、地元食材を使った学校給食の推進が提案されました。私は、前回の一般質問でも学校給食の地産地消率アップを取り上げましたが、商工会議所からは地元農業の活性化の視点から今回の提案がなされました。地元食材を使うことにより、児童生徒の食育を進めることや地元農業の振興につながることに誰も異論はないと思いますが、唯一食材のコストが高くなることが予想されるため、そのコスト上昇分をふるさと納税の寄附金で充当することもできるはずです。さらに、総務省が昨年10月27日に発表した内容によりますと、ふるさと納税の寄附金を起業支援と移住の促進に使う自治体へ特別交付税を配り財政面で優遇するとあり、その条件として寄附の使途をあらかじめ示すことと明記されております。総務省としても返礼品の競争ではなく、本来の使途・目的を明確にした地域活性化の知恵比べに誘導したいことが明らかであります。育児・子育て・教育は大館市の未来を担っており、人口減少が進む中で子供を産み育てることに対する予算の重点配分は何より大館市として優先的に行うべき政策だと思いますし、そこにふるさと納税の寄附金を充当することは多くの市民の理解を得られるものと思います。このように、ふるさと納税の使途・目的を具体化・明確化することによって、ふるさと納税の寄附額もふえ、人口減少の課題解決にもつながると信じております。市長の英断を期待いたしまして私の質問を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの日景議員の御質問にお答えいたします。

(1)市の観光戦略に顧客ターゲットの絞り込みを。①ピンポイントマーケティングが必要、②「何を売り込むのか」の前に「誰にどんな満足を提供できるのか」を考えるべきではないか、③ターゲットは台湾だけでいいのか、④東京や首都圏ではなく、渋谷区ではないか、⑤今は、少ない顧客に徹底的満足感を提供すべきについてであります。この5点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。まずもって日景議員におかれましては、市の観光振興の取り組みと秋田犬ツーリズムの活動につきまして評価と応援のお言葉をいただきましたことに感謝申し上げます。あわせて、平素より議員御自身の人脈と担当課の職員を直接つなげる活動を通じて、担当職員の視野・視点・人脈を広げていただいていることに関しまして重

ねて感謝申し上げます。市や秋田犬ツーリズムでは、インバウンドのメインターゲットを台湾として、トップセールスやモブモブ動画によるプロモーション、旅行代理店を対象とした商談会などを行った結果、外国人宿泊者数も順調に伸びております。秋田犬ツーリズムエリアでは、平成27年6,602人、28年8,244人、29年9,342人、大館市においても27年586人、28年1,387人、29年1,777人と増加し、これまでの取り組みの成果が確実にあらわれ始めたものと認識しております。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えてのタイ王国や富裕層が多いシンガポールといったアジア地域も重要なターゲットと捉えております。さらにグーグル検索では、特に東ヨーロッパからの秋田犬へのアクセスが非常に多いことから秋田犬の人気が高まっている今を逃さず、顧客を引きつける戦略を展開し、将来的には全世界を視野に入れた形にしていきたいと考えております。一方、議員御指摘のとおり、台湾は日本各地の自治体やDMOがターゲットとしている地域であり、競争相手が非常に多いレッドオーシャンであります。しかし、大館市と同じように台湾やタイ王国をターゲットとしてPRを展開しているのが県境を越えた弘前市であり、先般訪問させていただいた函館市との政策的な相乗効果を狙える国でもあると捉えております。これまでの台湾をエリアで捉えたターゲット設定からさらに狙いを絞った戦略的な取り組みも必要と考えており、秋田犬ツーリズムと連携してさまざまなマーケティングツールを活用し、各地域との競合分析を行い施策に反映していきたいと考えております。さらに、世界中の動物が好きな人、秋田犬が好きな人をターゲットとして、その中でも我々が提供する商品やサービスに強い共感を持ちそうな、議員御提案のペルソナを設定した上で、行動に結びつけるための訴求力の向上にも取り組んでいきたいと考えております。また、渋谷区との連携につきましては大賛成であります。大館市は忠犬ハチ公のふるさであることから秋田犬、ハチ公を活用した取り組みについては、当然渋谷区とのつながりを第一に考えるべきとの認識を持っております。渋谷区とのつながりをより一層深めることが今後の交流人口拡大のみならず、地域産業発展の重要な鍵になるものと考えております。また、このような考えは、長谷部健渋谷区長もお持ちであり、先般行われた忠犬ハチ公銅像維持会による賀詞交歓会や秋田犬フォーラムにおいても、区長御自身が会場に足を運んでくださりまして「大館市との取り組みをさらに進める」「大館市の取り組みを応援する」とのお言葉をいただいたところであり、こういった流れはさらに加速させていきたいと考えております。少ない顧客に徹底的に満足感を与える取り組みはリピーターの増加につながるもので、20%の顧客が80%の売り上げを生み出す、つまり20%のコアなお客様が売り上げの80%を占めるというパレートの法則にも当てはまるものと考えております。大和文化の原点である縄文からの歴史、縄文犬あるいは狩猟犬の末裔としての秋田犬、忠犬ハチ公のふるさとといったストーリーや、きりたんぼ・枝豆などのすばらしい食文化を武器に、個人旅行客への高付加価値、いわゆるプレミアム戦略を展開することが非常に有効な取り組みであると認識しているところであり、市場分析と受け入れ体制整備を進め、観光客に満足いただけるような地域づくりに取り組んでまいりま

す。

(2)「ハチ公の駅」をつくる意義と、今後の活用の位置づけをしっかりと固めるべきではないか。①つくる意義がしっかりと理解されているのか、②単なる犬のミュージアムとなっていないか、③今後の他地域との交流拠点としての位置づけを、④ハードには限界があるが、ソフト面で充実をについてであります。この4点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。ハチ公の駅（仮称）の整備目的は、大館駅前地区ににぎわいと活気を創出し、駅前地区を再興するためのきっかけとすることです。その主なコンセプトは、国の天然記念物としての秋田犬や忠犬ハチ公の物語を通じて、さまざまな忠犬物語をつなぎ、さらには日本犬、秋田犬のルーツを深掘りし発信することにより、さまざまな御縁を紡ぐ、あるいはさまざまな関係性を展開していく施設として位置づけております。秋田犬は、ハリウッド映画「HACHI 約束の犬」を契機に世界的に脚光を浴びており、秋田犬保存会の犬籍登録数は、国内では2,000頭台で推移しているのに対し、海外では平成28年度で3,922頭と25年度比で11倍と飛躍的に伸びている状況であり、今後もこの傾向は続いていくものと予想されております。この状況を絶好のチャンスと捉え、秋田犬を基軸として国内はもとより、海外とも交流していきたいと考えております。1月に渋谷で開催された秋田犬フォーラムにおいては、国立科学博物館の林館長より「縄文犬の末裔としての秋田犬を位置づけることが非常に有用である」「人類最古の土器文明である縄文文明の影響を最も色濃く受けた東北地方ならではの物語と、人類最古の家畜である犬との絆という視点を持って、もっと犬そのものにかかわるストーリーを掘り下げるべきだ」「ぜひ連携して犬の物語を発信していこう」という提案をいただいたところでもあります。また、同時に行われた忠犬ハチ公銅像維持会の賀詞交歓会では、長谷部区長より「忠犬サミットを企画しているので発起人に名を貸してほしい」と言われており、先ほど申し上げました世界中にある忠犬物語をつないで発信していくということもハチ公の駅（仮称）の重要なソフトになり得るのではないかと考えております。縄文犬から大館犬へと連綿としてつながる秋田犬のルーツを紹介するとともに、ハチ公はもとよりその他の忠犬に関するさまざまな物語を発信していく施設として整備していきたいと考えております。日景議員の「ハードには限界がありソフト面で充実を」との御提言には賛意を表するものであります。オープン前から事前PRを兼ねた愛称募集や整備費に対するクラウドファンディングを実施したいと考えているほか、オープニングイベントにおいても、渋谷区とのつながりを広く情報発信するとともに、縄文犬や世界の忠犬物語を深掘りした企画展、ハチ公サミットの開催など、必要な予算については議会と相談しながらさまざまなソフト事業も展開してまいりたいと考えております。大切なのはこのソフト事業を展開するに際し、大館だけに落とし込むという狭隘な考え方ではなく、大館を基軸に秋田県が、東北が、日本がつながっていくという視点が必要だと考えておりますので御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(3)ふるさと納税の用途・目的のうち、育児や教育に関するものは具体化・明確化すべき。使

途・目的を明確化することが本来のふるさと納税の姿。納税者の思いを具体的に実行することが大館の未来を左右することになるについてであります。今年度のふるさと納税につきましては、行政報告で申し上げましたとおり返礼率3割対応の実施にもかかわらず、寄附額が5億円を超える状況となっており、寄附額から経費を差し引いた額は、昨年度が約1億5,000万円であったのに対し、1月末現在で約2億3,000万円となっております。御質問のふるさと納税の用途区分・使い道につきましては、子供の成長支援、環境保全及び資源循環、高齢者等が安心して暮らせるまちづくり、特に指定しないの4つの項目を設け各種事業に充てさせていただいており、その内容については市ホームページ等で公表しているところであります。なお、今年度の項目別状況につきましては、1月末現在、子供の成長支援が38%、環境保全及び資源循環が17%、高齢者等が安心して暮らせるまちづくりが10%、特に指定しないが35%となっております。ふるさと納税制度の根幹には、都市と地方間の税収格差を是正するという目的があり、いわゆる地方への税源移譲と捉えているところであります。昨年9月には、野田総務大臣から全国の自治体に対し「ふるさと納税のさらなる活用について」と題して、ふるさと納税の使い道を地域の実情に応じて工夫し、ふるさと納税を活用する事業の趣旨や内容、成果をできる限り明確にすることが重要であるという趣旨の書簡が届けられたところであります。市としましては、ふるさと納税制度の趣旨を踏まえながら議員御指摘のとおり、子供の成長支援での寄附申し込みがあったものについては、育児や教育に関する事業に重点的に充当するなど、寄附をしていただいた方の思いを施策に反映させていくとともに、ふるさと納税の用途区分についても、現在の4項目をさらに細分化するなどの見直しを視野に入れながら検討してまいりたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○議長（佐藤久勝君） この際、議事の都合により休憩いたします。

午前11時18分 休 憩

午後1時00分 再 開

○議長（佐藤久勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

田村儀光君の一般質問を許します。

〔12番 田村儀光君 登壇〕（拍手）

○12番（田村儀光君） 平成会の田村儀光です。連日テレビで平昌オリンピックのニュースを見てうれしく思っておりますが、女子フィギュアスケートの金メダリスト、ザギトワ選手が「秋田犬が欲しい」と言ったことから始まって、秋田犬がこれほど注目されていることや、市長の対応が早いことに対してはすばらしいと思っております。ことしはいぬ年で大館にとってはチャンスであり、これを生かさない手はないと始まった平成30年ですが、これが世界的なニ

ユースになり、反響があればすごい追い風であり、本当にことし1年ワンダフルな年になるのではないかと思います。また、ハチ公の駅（仮称）も着工して、いよいよ来年オープンします。市民からは「赤字になって維持管理が大変になるが大丈夫か。負の遺産になるのではないか」という声が大半であり、私も本当に心配しておりますが、この追い風を受けてインバウンドが何倍にもふえると思いますので、その期待に応えられるような施設にさせていただきたいと思っております。さらに、世界に秋田犬の名を広めたきっかけは、かのリチャード・ギアの映画だと思っていますので、来年のハチ公の駅オープンセレモニーには、ぜひリチャード・ギアを招待できるように努力してもらいたいと思っております。それでは通告に従いまして質問に入らせていただきます。

1点目、**福原市政について。3年間を振り返っての感想**ということで伺います。振り返ってみると「1年目はマラソンのつもりで市政運営に当たるつもりだったが100メートルダッシュの毎日だ」と市長は言っていました。それが今も続いた結果、一丁目一番地の歴史まちづくり法の認定は、大館より先に認定申請している市町村がまだ認定を受けられないでいる中、1年半で認定を受けました。これは福原市長の手腕としか言いようがありません。本当に政治力のすばらしさだと思っております。そのほかにDMO秋田犬ツーリズムの立ち上げ、国民保養温泉地の指定、ONSEN・ガストロノミーウォーキングの開催など例を挙げれば数限りありません。いろいろと国の交付金を利用して本当にすばらしいと思います。私は福原市長に100点満点をつけたことがありますけれども、今でもその気持ちに変わりはありません。しかし、**常に全力で頑張っているのはわかるが、一旦立ちどまる必要があると思う**というのが私の感想も含めた市民の意見であります。今定例会で平成30年度の予算案が上程されましたが、任期最後の1年の予算編成であります。私は評価しているのですけれども、どうも市民の声が「100メートルダッシュの市長についていけない」と、まだスタートラインにいる感じを受けている人が多数いるのではないかと感じております。ここで一旦、またマラソンのペースに戻っていただいて、市民がみんな後ろについてきているかを確認する必要があるのではないかと、その点の市長の感想はどうなのか聞きたいと思っております。

イ. **都市再興基本計画のアンケート結果を見た市長の感想**は。この資料を議長の許可を得て皆さんのお手元にも配付しておりますが、これは大館市都市再興基本計画の事業で住民アンケートをとった結果で総合的な評価を示したものであり、10年前に行った同様のアンケート結果との比較であります。これは去年の9月に実施し、11月に結果が発表されたものですが、実は私も回答しておりました。商工会議所の新年会において中田会頭が、この結果の中で「満足」と答えた高校生が3倍にふえている点について、「これはふるさとキャリア教育の成果であり、すばらしい」と教育長にお褒めの言葉を贈っておりました。私もさっそく資料をもらったのですが、確かに高校生は平成19年に比べて平成29年の「満足」との回答割合が10%から32%と3倍になっています。これは大館にとっていいことだと思っております。市長が掲げる持続可能

なまちづくりにとっては、このような意識を持った高校生が3倍もふえたということは、5年後、10年後を考えればいい結果だと私も大いに満足しているところでもあります。しかし、一般市民の結果は、平成19年に比べて平成29年の「満足」の回答割合が22%から20%に下がっております。この10年というのは小畑市政が平成19年から26年までで、27年からの3年間は福原市政です。「満足」の回答が減り、「不満」の回答がふえている点を見て市長は率直にどのように思っているのでしょうか。市長が一生懸命やっていることは認めます。5年後、10年後は大館が変わり、よくなるに違いないと信じていますけれども、このアンケート結果が現状なのではないのでしょうか。今まで何回も一般質問で言うておりますが、今の各事業を市民と協働で行うという市長の考えからすれば、説明会をもっとふやして政策を市民にわかってもらえるよう説明して歩く必要があるのではないのでしょうか。改めて市長に申し上げますが、市民と一緒に、市民と協働で大館のまちづくりを行うという原点に戻って、今は一旦立ちどまって市民とまちづくりについて語り合っただけではいかでしょうか。4年の任期の最後の年ですので徹底して行っていく必要があると思いますが、市長の考えをお聞きしたいと思います。

また、喫緊の課題である人口減少ですが、第一に交流人口をふやそうということで今まで3年間取り組んできた姿勢はわかります。しかし、ウ. **人口減少対策、特に自然減への取り組みが弱かった**と思います。大館は今、ふるさとキャリア教育に取り組み、子供たちの意識も変わってきています。自然減に対しては子供をふやし、お年寄りにはできるだけ長生きしてもらって健康寿命を延ばすような取り組みを徹底して行うべきだと思います。今定例会の議案説明によれば天下町児童館が3月で閉館するそうですが、待機児童が46人もいるとのこと。保育施設数は公立・民間含めて39施設、利用定員は2,681人ですが、実際に利用しているのは2,119人と、まだ560人も施設には余裕があるのです。いろいろと事情があるのかもしれませんが、私も勉強不足で詳しくはありません。しかし、単純に560人も余裕があっても、なぜ46人も待機児童が出るのでしょうか。これでは、学力日本一の秋田県の中で「子供がよりよい環境で育つのであれば大館に行ってみよう」という人がせっかくいても、このように待機児童が出るような状態では、学力日本一という魅力がマイナスになってしまいます。少なくとも大館は、いつでも待機児童がゼロだと宣言できるような市にしてもらいたい。そのような取り組みが弱かったのではないのでしょうか。それから高齢者対策について言えば、健康寿命日本一を目指している秋田県に歩調を合わせるように、ポイントを集めると地域限定商品券と交換できる健康ポイント事業を行っております。新聞記事によると今年度は500~600人が地域限定商品券と交換したそうですが、これも周知を徹底していれば、もっと利用者がいたのではないのでしょうか。ポイント制度の中身の検討や周知徹底が必要なのではないのでしょうか。事業としてはいい事業だと思います。しかし、健康寿命を延ばすような自然減対策の取り組みが弱かったのではないのでしょうか。もっと徹底すべきだったと思いますが、市長の考えをお聞かせ願います。

2点目、平成30年度予算についてであります。①**必要な施策には借金をしても予算をつける**

べきと思うが、それを加味した上でのバランスのとれた予算なのか。さきの人口減少対策は本当に日本全国の課題であります。新年度の予算についての市長の感想は新聞で見ました。非常にバランスのとれた予算に仕上がったということでありましたが、私が言うところの必要な施策には借金をしてでも実行して大館を変えていくという点を加味した上でのバランスのとれた予算なのでしょうか。「バランスのとれた」とは非常に聞こえはいいのですけれども、その点について市長の考えをお聞きします。また、**重要施策は何か**。市長の任期は来年度が最後の1年です。任期は4年ですからオリンピックと同じです。メダルの色にはこだわりませんが、来年度、福原市長がメダルを取れるように、平成30年度にこれだけは実行して大館を変えていくという重要施策を、できれば3点でも4点でもお聞きしたいと思います。

②**大館版CCRCの考え方**。CCRCに取り組んでから3年目で国から交付金をもらえるのもことが最後です。平成30年度も約540万円の予算がついておりますが、過去2年間の予算は28年度500万円、29年度1,800万円の計2,300万円です。今まで2,300万円を使って、どのような大館版CCRCをつくろうとしているのでしょうか。それが30年度予算で決まるのかはわかりません。しかし、今私が見る限りでは何かちょっと道から外れていっているのではないかと思います。私の思っている道ですから市長の考えとは違うかもしれませんが、日本版CCRC・秋田版CCRCがあるように、大館では大館版CCRCと非常に私は期待しておりました。これも人口減少対策の一つになると思っていましたが、私の思いとはどんどんかけ離れていっています。新聞でCCRCの検討委員会や協議会の記事を見るたびに、どこに向かっているのかという思いが募ります。来年度は国から交付金をもらえる最後の年です。交付金が終わればこの事業も終わるということではないと思いますが、平成30年度予算の約540万円で何をどのように決めるのか、市長のお考えを教えてくださいたいと思います。

3点目、**扇田病院着服問題**についてであります。あれから何カ月かたちましたが、①**警察（刑事事件）の進捗状況**はどうなっているのでしょうか。

②**民事裁判の内容の公開はできないのでしょうか**。集会に行くと、いまだにどこの誰が着服したのかという話題になりますが、私も聞いていないので「わからない」としか答えようがありません。民事裁判であれば傍聴の機会もあると思いますし、傍聴に行けば多分被告人が誰なのかがわかると思います。口頭弁論の1回目が終わっていますので、被告人が誰なのか個人名を公表できるはずだと思うのですが、その点の回答をお願いしたいと思います。

以上で一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。（拍手）（降壇）

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの田村議員の御質問にお答えいたします。

(1)福原市政について。3年間を振り返っての感想。ア. 常に全力で頑張っているのはわかるが、一旦立ちどまる必要があると思う、イ. 都市再興基本計画のアンケート結果を見た市長の感想は、ウ. 人口減少対策、特に自然減への取り組みが弱かったと思うがに關しましては一括

してお答え申し上げます。初めに、田村議員におかれましては、毎回過分なお褒めと励ましの言葉をいただき、そのお心遣いに感謝申し上げます。その期待に応えられるよう、引き続きふるさと大館のために一生懸命頑張っていくことをお約束申し上げます。平成27年5月に第5代大館市長に就任してから2年10カ月たとうとしております。その間、私は常にふるさと秋田のために我が大館ができること、ふるさと秋田のために我が大館が持つ強みを意識し念頭に置きつつ、市議会議員を2期務めさせていただいた後、2人の代議士の政策秘書官として永田町で頑張らせていただいたことを含めて、その人脈を生かしながら国や県、ほかの自治体との連携を強化し、国内外に広く目を向け、関係性人口・交流人口の拡大のための施策に全力を傾注してきたところであります。この間私が意図していたのは、どこの自治体もそうですが、定住人口が減っていく中で連携して関係性人口をつくるために問題意識を共有することを常に努めてまいりました。そして、ふるさと秋田のために我が大館ができることを突き詰めると、市町村レベルの自治体でできることではない県・国を貫く政策の軸を持たなければ、県も大館を振り向いてはくれません。ましてや国は、自分のことしか考えない自治体とは政策連携を進めないという確信があったからであります。おかげさまで県内初の歴史的風致維持向上計画の認定もございました。私は方向性を示し、それ以降に副市長・部長・課長を初め、市の職員の皆さんがついてきてくれたことが非常に大きいと考えており、ぜひ、市の職員にもお褒めの言葉をいただきたいと考えております。歴史的風致維持向上計画の認定を初め、秋田犬ツーリズムが作成した秋田犬による観光PR動画の「PRアワード・アジア2017」でのダブル受賞。そして、3D連携などによる他自治体での観光PRなどにより、本市の国内外での情報発信が進められ観光入込客数が順調に伸びるなど、一定程度の成果がおさめられたものと考えております。また、田村議員からは「いま一度立ちどまっては」とお気遣いいただきましたが、先般、函館市に表敬訪問した折に工藤市長より一言いただき、「札幌から仙台を見据えた超広域観光周遊ルートの中で、函館と大館はともにその接着剤の役割を果たそう」という意向を共有したわけですが、このような賢明な首長と一緒に仕事をさせていただいている中において、私はここに座しているわけにはいかないと考えております。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、国のインバウンド政策が加速度的に進められており、日本国内への観光入込客数が順調に伸びている中であって、この大館への追い風を確かなものとするためにも、今まで以上にさまざまな施策に全力で取り組んでいかなければならないと考えております。また、田村議員御指摘の点を踏まえ、市民の皆様にも今の取り組みの成果が目に見えるような形で、例えばホームページや広報などで私自身が市長リポートとして情報発信するような体制をつくっていきたいと考えております。また、都市再興基本計画のアンケート結果につきましても、総合的な評価をさらに細分化して各項目の中で特に不満度が大きいものの項目を挙げると、「街のにぎわい」「公共交通の利用のしやすさ」「余暇を楽しめる催しや機会」の項目などで大幅に満足度より不満度が高いという状況にあります。言いかえるならば「街のにぎわ

い「公共交通の利用のしやすさ」は人口が減少していく中でどんどんと町のありようが変わっていくことに対する不満、あるいは不安があらうかと思えます。「余暇を楽しめる催しや機会」等は、今、交流人口・関係性人口をふやす中で応えていけるものと確信しているところがあります。今後は、今回のアンケート結果を都市再興基本計画の策定に生かすだけでなく、今般実施している市民満足度調査の結果も踏まえながら現在進めている総合戦略・総合計画などの見直しに活用していきたいと考えております。さらに、本市の人口減少対策としては、総合戦略に基づき「ひとづくり」「暮らしづくり」「ものづくり」「物語づくり」の4つの政策分野ごとにさまざまな施策に取り組んでおります。その中で自然減の抑制を目指して、特に保育料や医療費の助成を拡充するとともに、出産祝い金制度を創設したほか、来年度からは、県との協調による保育料助成のさらなる拡充や、認定保育施設利用者向けの助成、在宅子育て世帯向けの子育て支援策を創設するなど、待機児童ゼロを目指すとともに、子供を産み育てやすい大館を実現していきたいと考えております。一方、高齢者対策としては議員同様、健康寿命を延ばすことに尽きると考えております。今年度、各種健康診断の受診や健康講座への参加など、健康づくりの活動を行った方に対しポイントを付与する健康ポイント事業を創設しましたが、来年度はさらに対象となる健康講座の拡充を進めるほか、事業所単位での健康づくり活動への参加を促進するなど制度の見直しを図り、健康寿命日本一を目指していきたいと考えております。人口減少対策につきましては、これら自然減を抑制するための多岐にわたる施策を継続して行うことが何よりも肝要であると捉えておりますので、どうか御理解を賜りますようお願いいたします。

(2)平成30年度予算について。①必要な施策には借金をしても予算をつけるべきと思うが、それを加味した上でのバランスのとれた予算なのか。重要施策は何かについてお答え申し上げます。平成30年度当初予算案につきましては「第2次新大館市総合計画及び総合戦略の着実な推進」「教育・福祉の充実と生活関連道路の整備促進などへの重点配分」「行財政改革と財政健全化の推進」の3点を基本方針として編成いたしました。編成に当たっては、あきた未来づくりプロジェクト事業・本庁舎建設事業・歴史まちづくり事業など将来の大館のまちづくりのための投資的事業とあわせて、市民生活に身近で市民からの要望の高い、生活関連道路の整備費、保健・医療・福祉や雇用確保と産業基盤の強化を図るための施策など、今の市民の暮らしを支えるための事業、加えて若い世代の結婚・出産・子育ての支援や、ふるさとキャリア教育の推進、教育環境の整備など、この地域が維持・発展していく礎となる「ひとづくり」としての施策に、新規事業を構築しながら重点的に配分したところであります。一方、これまで取り組んできた主要事業のK P I（重要業績評価指標）や事業効果を検証し、施策及び投入する予算額を見直したほか、過大な将来負担を招かないよう、中期財政計画を指針として普通建設事業の年度間の調整やプライマリーバランスの黒字の維持にも配慮いたしました。人口減少に伴い一般財源が縮小する可能性が否定できない中において、財政規律を維持しつつ、限られた財源で

予算の最適配分を行い、行政サービスを効率的に行うことが肝要であることは言うまでもありません。その上で各施策が相互にかかわり合いながら本市産業の生産性を高め、地域経済が循環することで市民生活の安定と地域の維持・発展につながるよう留意して予算を編成したところであります。現在、国においては2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、各省庁の政策体系、歳出分野における重点事項等が短期間に著しく変遷している状況にあります。こうした中で新しい政策パッケージを初め、国・地方の役割分担などの方向性を時宜を逃さず情報収集し、本市の市政運営に最大限生かしていくことが首長としての私の務めであると認識しておりますため、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

②大館版CCRCの考え方についてであります。この質問においては田村議員から私も示唆をいただいたと感じております。まず冒頭に申し上げたいことがあります。大館版CCRCについて私と幹部級職員で議論するとき、アメリカのCCRCと政府が考えているCCRCは根本的に違うという認識を共有していることをお話しさせていただきたいと思っております。コンティニューイング・ケア・リタイアメント・コミュニティー発祥の地アメリカでは職業別労働組合となっているため、同じ職種を求めて容易に転職や住みかえができ、また、介護保険制度がないことから老後の生活は自己責任で解決していく必要があるため、CCRCへ入居するという考え方が受け入れられてきました。例を申し上げますとA自動車の工場で働いている工員の方とB自動車の工場で働いている工員の方は同じ組合であるという意識でよろしいと思っております。一方、日本では企業別労働組合となっており、地域や家族とのつながりが深いことから転職や住みかえには抵抗感があるなど、介護保険制度がないアメリカとは、おのずとその考え方の土壌が異なることについて幹部職員と認識を共有しました。大館版CCRCにつきましては昨年度整備構想を策定し、今年度は基本計画を策定することとしております。基本計画につきましては原案を作成し、庁内検討委員会やその下部組織である作業部会で検討後、2月27日には民間委員8人から成る大館版CCRC整備推進協議会で協議しており、これらの意見を反映させた計画案を本定例会にお示しすることとしております。本計画は、わかりやすく、かつ誤解を招かないようCCRCの文言を用いずに「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画と題しており、その主眼は大館暮らしの魅力を充実させることで若年層を含む多世代の方々の健康長寿や生涯活躍を実現し、定住促進と移住者の獲得を目指すこととしております。田村議員御案内の民間事業者と連携しての移住者獲得も、確かに有効な手段の一つと考えております。まずは、大館暮らしの充実イコール市民生活の充実を目指して頑張っていきたいと考えております。

3点目の扇田病院着服問題については、佐々木病院事業管理者からお答え申し上げます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○病院事業管理者(佐々木睦夫君) 3点目、扇田病院着服問題について。①警察(刑事事件)の進捗状況は、②民事裁判の内容の公開はできないのかの2点でございますが、関連がありますので一括で答弁させていただきます。扇田病院における外来診療費着服事件の経過につ

いては、これまでも厚生常任委員会や議員全員協議会での報告とその報道、病院だよりへの記事掲載等により、速やかに公表するよう努めてきたところであります。初めに、警察による捜査の進捗状況についてであります。最近、秋田県警本部からの応援も加わり、証拠の確認、検証など作業が加速されているようではありますが、捜査への支障を避けるため詳しい説明は受けておりません。今後、司法書類の作成完了後に本格的な捜査に着手するのではないかと考えております。次に、民事訴訟についてであります。第1回公判は1月25日に秋田地裁大館支部にて公開により開かれ、この日は報道関係者を含め約30名の方が傍聴いたしました。被告側は出廷せず、原告側の提出証拠の点検や、被告から提出された答弁書の送致を確認いたしました。答弁書の中で被告側は「損害賠償義務はない」などと主張し、争う姿勢を明らかにしております。次の公判は3月20日と定められましたが、次回以降は当事者同士のみの非公開の法廷となる予定です。判決までの期間は、平均的には証拠書類だけの審理の場合で1年程度、証人尋問が行われる場合にはさらに長期化すると見込まれております。なお、被告の氏名等につきましては、今後の審理や家族等への影響も考慮し、当方からの一方的な公表は差し控えたいと考えております。今後とも本件について進展があった場合は、適時報告してまいりたいと考えておりますのでよろしく御理解を賜りますようお願いいたします。

○12番（田村儀光君） 議長、12番。

○議長（佐藤久勝君） 12番。

○12番（田村儀光君） 市長、頑張ってください。リチャード・ギアの件に関して、世界に秋田犬の名を広めたきっかけをつくったのはリチャード・ギアの映画だと思っています。感謝の気持ちでお誘いすれば来てくれるのではないかと思いますので知事と検討していただきたい。ハチ公の駅についてはみんなが本当に心配しております。オープンセレモニーには行政協力員なり大館市全域の人を呼んでもらいたい。ザギトワ選手の件でインバウンドは間違いなくふえると思いますので、それを見据えた取り組みをぜひ行ってもらいたいと思います。

大館版CCRCについてですが、日本の人口は東京圏に一極集中しており、東京圏の人口はふえ、地方は全部減っています。その東京圏でアンケートをとった結果、65歳以上では「つの住みかは地方で」という方が40%ぐらいいるということです。そのような人をターゲットにしたCCRCを地方で考えてほしいということです。今までの予算の使い方を見ていると、確かに協議会や講習会を開催しているようですが、那須高原や金沢などの先進地に職員を派遣して、どのようにすれば大館でもうまくいくのか事例を学ばせてはいかがでしょうか。私は3年前、那須高原の施設を視察してきましたが、そこには将来地方で暮らしたいという東京・大阪の会員が3万人いるそうです。それで入居者が最初の10人ぐらいから約70人にまでふえたそうです。これは、大館市でもそれほどお金をかけなくてもできると思います。場所だけ行政で用意して事業者が施設を建ててもらい、地方で暮らしたいという人に来てもらう。すぐにできると思って福原市長に進めてほしいとお願いしました。しかし、今の予算の使い方を見ていると、

庁内で一生懸命に検討委員会を開催しているようですが、何に向かっているのでしょうか。名前はC C R Cでなくてもいいです。国の狙いは東京から人を出したいということなので黙っているわけにはいきません。いずれ移住・定住がふえるように真剣に検討してもらいたいと思います。単に庁内で会議をして2,300万円の交付金を無駄遣いにはしてほしくありません。今のやり方で庁内で検討会・委員会を幾ら開催しても成果は上がらないのではないかと思います。来年度は予算約540万円を使って、31年度にはC C R Cの花を咲かせ実にするという気持ちで取り組んでもらいたい。職員を現地へ派遣して先進地事例を学ばせて取り組んでもらいたいと思っていますけれども、その辺の考え方をお聞きします。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（佐藤久勝君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの田村議員の再質問にお答えします。まず、リチャード・ギアさんの件も含め、あらゆる可能性に挑戦するのが政治家福原淳嗣であります。それだけはお約束申し上げます。だからこそひとつ御理解いただきたいと思いますが、先に名前を出してしまうと必ず潰されます。それがハリウッドです。そのため言いません。県・国、あるいは秋田犬ツーリズムの映像がダブルで賞をいただきましたが、その業界関係者と連携して情報の共有を図り、漏れないように進めていかないと事は実現しません。熱い思いはありますが、それはあえて控えさせていただきたいと思います。この分野に関しても知事と連携を深めつつ、対応させていただくことをまずはお約束申し上げたいと思います。

C C R Cについては、私の記憶が間違いでなければ、旧建設省の国土計画局から移住・定住の話は戦後の一つのテーマとして挙がっております。当時、大学生を使い夏期休暇を利用して地方に行ってもらってレポートを上げ、それを若い世代の将来の地方の移住につなげていくという考え方をつくったのは建設省であります。つまり、都会に集まりすぎた国民を可能な限り地方に移していくことは国策の一つでもあります。C C R Cの捉え方を私たちが最初から憂慮していたのはまさにそこにあり、私たちが見ていたとおり、政府においてはC C R Cの呼び名が1年後に変わりました。つまり、政府の方針が動いているわけであります。先ほど申し上げましたとおり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、施策の進め方、あるいは予算の編成の仕方が都度変わっていく中において、今大館が進めている移住交流の施策を継続性と政策的な拡張性の相乗効果をもたらしながら進めていく上でも、庁内あるいは有識者を交えた協議は必要だと考えております。将来的にはこの分野においても大館市単体ではなく、地域自治体の連携などが必要になってくるのではないかと思います。いずれ、空港の利用促進協議会に県境を越えた自治体が加入する意向を示すなど、この分野における取り組みは加速度的に変わっていくものと思います。大館版C C R Cが大館暮らしという形に変わったとはいえ、一人でも多くの方に大館に興味と関心を持ってもらって、いずれは大館という地域社会、ふるさと秋田、我が大館を支えていける将来の大館市民がふえる施策を今後も

強力に進めていくことに関しましても御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（佐藤久勝君） 次に、佐藤健一君の一般質問を許します。

〔20番 佐藤健一君 登壇〕（拍手）

○20番（佐藤健一君） いぶき21の佐藤健一です。午後から2人目の質問者ということで眠くなる時間帯ですが、最後までおつき合いのほどよろしくお願いします。質問に入る前に、きょうも雪が降っているわけですが、今季の豪雪あるいは先日の春の嵐で被害を受けた方々に心からお見舞い申し上げます。それでは通告に従いまして3点について質問いたします。

1点目、**少子化対策、子育て支援について**。国立社会保障・人口問題研究所が平成24年度に行った日本の将来推計人口の調査によると、今後も日本の人口減少は続き、出生及び死亡の割合を中間で見た中位推計では大体30～35年後には1億人を割り込むようです。その間に急速に高齢化が進み、30年後にゼロ～14歳の年少人口が800万人、人口比8.4%を割り込み、15～64歳の生産年齢人口は5,000万人、人口比52%を割り込みます。逆に65歳以上の老年人口は3,800万人、人口比39%を超えます。このような状態が続くと地域社会の基盤維持が限界を超えます。人口減少と高齢化が進む社会の中で地域間格差が出て、特に生産年齢人口世帯が都市部に集中していきます。10年後、20年後、30年後の基盤維持を考えると、生産年齢人口世帯、特に子育て世帯の流出防止だけではなく、子育て世帯を呼び込むための施策を考えなければなりません。地域の活性化には就業支援や各種インフラの整備も重要ですが、子育て世帯に関しては特に安心して子育てができる環境や切れ目のない子育て支援が重要であると思います。そこで**大館版ネウボラ**について伺います。ネウボラとはフィンランド語でアドバイスの場所という意味ですが、フィンランドで制度化されているワンストップ型の子育て支援拠点のことです。妊娠・出産から就学前までの育児を切れ目なく継続的に支援するのが特徴です。ネウボラには出産ネウボラと子供ネウボラがあり、妊婦・出生児ともほとんど全ての95%の人が利用しています。1人の保健師、通称ネウボラおばさんが継続して担当するのも特徴です。以上を参考にしながら日本でも妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を目指し、平成26年から妊娠・出産包括支援モデル事業がスタートしました。このモデルは3つから構成され、そのうちの母子保健相談支援事業が、平成27年度から利用者支援事業（母子保健型）として消費税財源を活用して拡充されました。その事業の目的は、子育て家庭や妊産婦が教育・保育施設、地域子供・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の関係機関を円滑に利用できるよう、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、関係機関との連結調整、連携・協働の体制づくり等を行うものです。その中に妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援のためのワンストップ拠点として、平成29年4月に日本版ネウボラと

言われる子育て世代包括支援センターが法定化されました。政府がこの支援センターの設置を決定した理由は、人口減少対策と地方創生の総合戦略案に掲げた目標の達成の2つです。そこで市長に伺います。平成30年度予算案に大館版ネウボラについて計上されており、大館市で子育て世代包括支援センターさんまあるを設置しておりますが、その活動はどのようなのか御紹介願います。また、今後のあり方についてもあわせて伺います。

2点目、**農業対策について。**①**大館産米のトップセールスについて**です。農業問題については、先般農業者の会議の中で聞かれましたので、それを含めて市長から答弁をお願いします。市長就任後の農業者への講演で「JAあきた北の組合長と大館産米のトップセールスをすぐにでも行いたい」との話がありましたが、その結果をお伺いいたします。

②**あきたこまちにかわる新品種の開発状況**は。このたび、日本穀物検定協会が発表した2017年産米のランキングでは、新品種が参加する参考品種の部門で宮城県の「だて正夢」、山形県村山の「雪若丸」、福井県の「いちほまれ」が特Aを獲得するなど、いずれも2018年に本格販売する多くの新ブランド米が高評価を得ました。ちなみに、あきたこまちは県南産のみが特Aで魚沼産のコシヒカリは例年特Aでしたが、ことしは脱落しました。これからは、おいしい米が主流になると思います。そこで、あきたこまちにかわる新品種の開発状況について新聞でも少々触れていましたが、市長に詳しく伺いたいと思います。

また、わせ品種の③**五百川の販売状況**はどうなっているのかもあわせて伺います。

④**重点品目、枝豆の今後について**です。枝豆の栽培面積を拡大するメガ団地も平成30年度で一区切りと伺っています。今後、産地を維持していくためには、いままで下支えしてきたメガ団地以外の栽培者へも何らかの支援が必要だと思っておりますが、いかがでしょうか。

3点目、**世田谷区との交流について。**木村泰治氏ゆかりの世田谷区との交流を進める考えはないかです。以前にも質問いたしました。先日、議員研修の後に上北沢を視察し、その感を強くしましたので再度質問いたします。木村氏の功績については、上北沢桜並木会議のホームページの中で次のように紹介されています。「1. 肋骨通りの謎。京王線上北沢駅の南には重厚な桜並木を中心にして、それから左右に4本ずつの道路が斜線に伸びる「肋骨通り」と通称される特徴的な区画を持つ住宅街区がある。現在は「せたがや百景」に選ばれると同時に、平成11年には世田谷区が制定した風景づくり条例に基づく地域風景資産に制定されている。しかし不思議なことに、その発祥と歴史についてはほとんど知られてこなかった。2. 関東大震災直後のまちづくり。上北沢桜並木街区は、大正12年9月1日の関東大震災によって東京が壊滅したことを知って、木村泰治、当時、台湾土地建物株式会社社長が東京復興のためのまちづくりを志して、大正13年4月、銀座に第一土地建物株式会社を設立し、地元の鈴木宗之氏ら関係の地主から土地を買収して造成し、同年の10月14日から販売を始めたものである。開発総面積は2万9,633.96坪、道路率は13.6%であり、宅地を132口数に分割したため、1口の平均は約194坪になった。そして、上水道のほか道路に沿って開渠式のコンク

リート製の下水道を敷設し、住宅の敷地は生垣によって囲んだ。昭和35年に出された自叙伝で、木村氏は「現在、東京は世界第一の人口を擁し、大規模な都市計画も進められているが、近郊に計画的なまちづくりをする人はやはりいないようだ。これはなぜだろう。個人の金もうけにならないためなのだ。私は北沢を開くとき、資金は台湾で社長をしていた台湾土地建物会社の資金150万円を臨時に融資して、大正13年に第一土地建物会社を銀座3丁目に創立したが、実は台湾会社の株主から大反対を受けた。東京の住宅地を台湾の金で開くことは不当だと言うのである。私は「台湾の会社に結局損をしないようにするからしばらくの間、国のためだと思って見てもらいたい」と説得して北沢の計画に入ったのだ。これによって私個人は少しも利得がなかったが、台湾の株主には迷惑をかけずにすんだ。今、顧みても意義ある仕事をしたと思っている」と述べている。3. 桜並木の街路樹を持つ住宅地として世界の先駆け。初めて住宅地の街路樹としてソメイヨシノを使ったのは新町、現在の桜新町と言われており、上北沢はこれに続いて全国で2番目である。しかし、新町は戦後、国道246号線によって寸断され、当時の面影を失ってしまったため、上北沢桜並木街区は造成された当時の住宅街区と一体になった桜並木の面影をほぼそのまま現在に伝えるものの中で我が国で最も古いと考えられる」とあります。私が訪れたのは土曜日でしたので区役所には訪問できませんでしたが、現地の人に聞いてみると、日本で一番自慢できる住宅地だと強調していました。また、桜は1本1本診断され大事に保存されているようでした。3月11日には花芽観察会も予定されているようです。大館市では、今までハチ公つながり、歴史つながりの交流が多かったと思いますが、人づくりの意味でも、このような人つながり、偉人つながりの交流を進めてはいかがでしょうか。経済界の人たちにも声を届け、世田谷区との交流をぜひ実現してください。

市長の前向きな答弁を期待して私の一般質問を終わります。ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤健一議員の御質問にお答えします。

(1)少子化対策、子育て支援について。大館版ネウボラについて伺うについてであります。妊娠期から子育て期にわたって切れ目なく、きめ細かな支援を提供することで、子育て世代の不安解消と安心感の醸成を目的として、大館版ネウボラである大館市子育て世代包括支援センター、愛称、子育てサポートさんまあるを平成28年7月1日に開設しております。オープンする2カ月ほど前に「市長にぜひ見ていただきたい所がある。さんまあるの場所はこの部屋です」と担当職員と一緒に行きました。今でこそ申し上げますが、実はそのとき余りにも部屋がぼろぼろだったので、これで本当にできるのかと思い愕然としました。ところが7月1日にオープンしたときには、健康課や子ども課の職員が私ごととして自分たちで作業し、私が勉強したフィンランドのネウボラの場所の雰囲気そのものを再現してくれていたのが本当にうれしかった

ことをきのうのように覚えております。どちらかというところ「ものづくり」と「物語づくり」に特化して根本に「ひとづくり」がありました。それを打ち出した平成28年7月1日にそのような形で開設することができたのは、市長としてまことに喜びにたえない思いでありました。さんまあるには、専任の助産師2人と兼任の保健師3人を配置し、妊娠34週と産後2週の妊産婦への電話訪問や、産科病棟を訪問しての育児支援の情報提供などを行っているほか、祖父母を対象とした子育て支援講座も実施しております。また、全ての妊婦の皆さんについて支援プランを作成し、特に心身の不調や育児不安等を抱えている方には来所相談だけでなく、家庭訪問や臨床心理士による相談を行っております。設置2年目となる今年度は、さんまあるの認知度も上がり来所相談件数が増加しております。担当課長から教えてもらいましたが、おなかの中に子供を宿してからの不安を直接相談する相手ができると、その人に情報が特化し、一度きずなができる、そのきずなはなかなか壊れないという報告も受け、まさにそういった気づきをこれからの大館市ならではの子育て施策に反映させていかなければならないという実感を持っております。来年度は、不安や悩みを抱える母親の相談支援を行う子育てサポーターを育成し、産後サポート事業にかかわっていただくほか、子育て支援機関等と連携を図りながら次代を担う子供を安心して産み育てられるよう、さらなる支援の充実に努めてまいります。

(2)農業対策について。①大館産米のトップセールスについてであります。関係性人口や交流人口の拡大に向けて、国内外を問わず交流を深め、仕事をつくり出すのが私の務めだと考えており、渋谷区や茨城県常陸大宮市、大阪府泉佐野市等と交流を図る中で米を含む市の特産物全般のPRを行ってまいりました。平成27年には地元スーパーの店頭立ち、枝豆の販売活動も行っております。しかし、残念ながらJAあきた北の組合長と一緒にトップセールスは実現していませんが、私が行った先で「市の特産物でこういう反響があった」とか「こういうパッケージなら売れる」ということを都度、組合長または関係の皆さんとも情報の共有を密にしているのは、既に佐藤議員も御認識いただいているものと考えております。その効果は、ふるさと納税額が増加し、返礼品として大館産米がかなりのウエートを占めている状況や、きりたんぽまつりも盛況で来場者が増加傾向にあることなどにあらわれていると認識しており、今後も交流を通じてPRを図ってまいりたいと考えております。

②あきたこまちにかわる新品種の開発状況はについてであります。秋田県では本年1月、秋田米生産・販売戦略策定会議を設置して、33年度までを期間とする秋田米生産・販売戦略を策定し、米どころ秋田の強みを生かしたブランド力向上の戦略の一環として「極良食味米品種の開発・デビュー対策」を掲げております。新品種は食味を重視して選抜し、今年度は5品種に絞り込み、さらに1品種の候補を定めたところであり、30年度には県内各地で試験栽培を行い、栽培の適性や食味を調査して適地を選定することとしております。秋田米のプライスリーダーとなるシンボリックな品種は、32年にプレデビュー、34年から本格生産を目指すこととしております。また、品種登録申請のめどが立った段階で県知事をトップとした新品種ブランド化戦

略本部（仮称）の設置が予定されております。栽培マニュアルの策定や産地・生産者の絞り込み、実売に結びつくプロモーションなど、総合的な生産・販売対策を展開していくこととしております。また、あきたこまちにかわる新品種の実売等に関しましては、今、我が市は秋田県・秋田犬ツーリズムとともに世界に向けたPRについて連携が図れております。どこの自治体よりも早くこのような傾向を踏まえ、地元の関係者の皆様方との情報の共有を図っていくこととお約束申し上げます。

③**五百川の販売状況**はについてであります。五百川は、福島県中通り地域で民間育種され、同地域を中心に作付が行われているコシヒカリ系統の極わせ品種であり、8月下旬には早場米として収穫が可能であることから稲刈り時期の分散による作業の効率化や、適期収穫による品質向上につなげようとJAあきた北が栽培を推進し、平成24年度から市内の農家が行っているものであります。29年度は3経営体が5.2ヘクタールで栽培したところ約26トン収穫し、9月中旬から市内スーパー等で販売されました。五百川は収量の確保に技術を要し、また、種子は大手卸会社から需要分のみ供給され、確保が容易ではない品種であることから取り組み者の拡大については、栽培を推進しているJAあきた北とも相談しながら進めてまいりたいと考えております。

④**重点品目、枝豆の今後**はについてであります。枝豆は市の重点戦略作物であり、市総合戦略におけるKPIの一つとして平成31年度目標値を作付面積230ヘクタールと設定し、その拡大に向けて積極的に取り組んでおります。市では枝豆を初めとする重点戦略作物9品目の作付拡大等を支援する独自事業として、重点戦略作物等作付支援事業を実施し作付を支援してまいりました。昨年度の枝豆の作付実績は152ヘクタールであり、今年度は園芸メガ団地の整備などにより209ヘクタールと規模を拡大しております。市内2つのメガ団地では、30年度までに約110ヘクタールの作付拡大に取り組むこととしており、市としても計画的な作付を後押しするため、今年度からは10ヘクタール以上の拡大に対し大規模拡大加算を設定しております。メガ団地事業の最終年度である30年度には作付面積拡大の目標達成が見込めるため、31年度以降については支援方法の見直しが必要であると考えており、高品質加算や高収穫量加算等の設定について検討しながら名実ともに「えだまめのまち大館」の実現を目指していきたいと考えております。また、あきたベジフルサポート及び北都銀行と締結したアグリビジネス支援協定に基づき、28年度から実施している朝どり枝豆の取り組みを継続するとともに、秋田犬ツーリズムの「朝採れ枝豆」を使用したペーストの商品化に向けた取り組みや、市内菓子店による倶楽部スイーツの枝豆活用商品の展開などとも連携していきたいと考えております。

(3)**世田谷区との交流について。木村泰治氏ゆかりの世田谷区との交流を進める考えはないか**についてであります。昨年3月議会の一般質問でお答えしたとおり、木村泰治氏は行動力に富み多彩な分野ですぐれた才能を持った先人・偉人であり、郷土の誇りとして尊敬しているところであります。今後も木村氏を通じたさまざまつながり・関係性を深掘りしていきたいと考

えております。また、佐藤議員の御提案につきましても、渋谷区・東急グループとのつながりの強化を目指す大館にとって、その東急沿線地区の一つである世田谷区との交流の意義は高いものと考えております。忠犬ハチ公の銅像作成のきっかけをつくった木村泰治氏、そして木村氏が昭和天皇・皇后両陛下に寄贈されたハチ公の伏臥像の出資者であったため、木村泰治氏と皇室、そして大館との関係性から渋谷との交流をさらに深めたその先に、世田谷との交流があると考えております。特に、世田谷区において通勤・通学に自動車を使う割合は10%もないと思います。そのため、世田谷区にはバス路線や鉄道としての2つのキーステーションがあります。一つは渋谷駅であり、もう一つは新宿駅であります。そうした中において渋谷から世田谷へのルートを図るためにも、バス会社あるいは鉄道会社、特に東急グループを基軸とする方々との関係性を深めるとともに、今度は京王グループともかかわっていかなければならなくなります。まずは渋谷との交流をさらに進め、その先に肋骨通りを含めた世田谷ともエリア拡大を含めた交流を進めていきたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○20番(佐藤健一君) 議長、20番。

○議長(佐藤久勝君) 20番。

○20番(佐藤健一君) 一問一答でお願いします。人口減少対策とネウボラについてです。千葉県流山市では、この人口減少時代に2万5,000人が増加し、子育て世代と歩んだ流山市の大胆なまちづくりということが紹介されております。平成15年度に就任した伊崎市長は平成29年9月までの14年間で人口を2万5,000人ふやしたそうです。そして、合計特殊出生率は全国で1.44、千葉県は1.33ですが、流山市は1.57ということになっています。確かに千葉県は首都圏ですけれども、実は県として人口が減っているようです。このように人口をふやした市長は「母になるなら流山市」というキャッチフレーズで子育て世帯に特化したまちづくりを進めています。大館市もネウボラの話がありましたが、これを入学前の子供たちばかりではなく、小学校・中学校・高校へも援助して「母になるなら大館市、子育てするなら大館市」というキャッチフレーズでこれからのまちづくりを進めていただきたいと思いますが、改めて市長の決意をお伺いいたします。

○市長(福原淳嗣君) 議長。

○議長(佐藤久勝君) 市長。

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤議員の再質問にお答えします。やはり大館市の将来の主役は子供たちであります。そして、その子供たちを育ていく子育て世代の方々に「やはりふるさと大館で子供を産み育てられてよかった」と思っただけのことが、まず何よりも大切だと考えております。先ほど田村議員の質問にもお答えしましたが、平成30年度予算は特に、在宅も含め子育て支援に新規で予算配分したところであります。将来的にはぜひ佐藤議員から御紹介がありました「子供を産むなら大館、子育てするなら大館」と言える我がふるさと大館

を生み出せるように今後も取り組んでいきたいと考えておりますので御理解賜りますようお願い申し上げます。

○20番（佐藤健一君） 議長、20番。

○議長（佐藤久勝君） 20番。

○20番（佐藤健一君） あきたこまちにかわる新品種についてですけれども、市長も新しい品種が必要だということを認識されておりますし、県でも進めているようです。新聞に出ていることをなぜあえてここで取り上げたのかというと、大館市の米づくり農家では、あきたこまちで特Aをなかなかとれないということから新しい品種を待ち望んでいるためです。新品種が出たら種子をぜひ大館市を中心に持ってきてもらいたいというのが本音です。よろしくお願いしたいと思います。

○議長（佐藤久勝君） この際、議事の都合により10分間休憩いたします。

午後2時20分 休 憩

午後2時30分 再 開

○議長（佐藤久勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

藤原明君の一般質問を許します。

〔11番 藤原 明君 登壇〕（拍手）

○11番（藤原 明君） 平成会の藤原です。きょうのラストバッターになりました。大変お疲れのことと思いますがよろしくお願い申し上げます。第23回冬季オリンピック平昌大会は2月25日に17日間の熱戦に幕をおろしました。日本は史上最多13個のメダルを獲得し、日本国民に多くの感動と夢を与えてくださいました。日本選手団の活躍に絶叫するアナウンサーの声に目頭が何度も熱くなりました。一方において、出場枠のない北朝鮮の参加が認められるなど、国際政治が色濃く反映された大会であったとも言われております。オリンピックのバトンは、いよいよ2020年の夏季東京大会に引き継がれることとなり、今から大会の成功を心待ちにしております。また、海外ではアメリカのトランプ大統領が就任するや、TPPからの離脱や難民の入国制限などの大統領令を矢継ぎ早に発するなど大きな反発と混乱を招きました。一方で北朝鮮はミサイルの発射や核兵器実験を繰り返し、国際的な孤立と対立を強めております。戦争のない穏やかで平和な世界でありますよう心からお祈りするものです。それでは通告に従い3点質問させていただきますので、よろしくお願いいたします。

1点目、JR扇田駅前にトイレ設置の要望が多いがについてであります。JR扇田駅は平成25年2月に新駅舎が完成しスタートしました。駅舎は比内鶏のとさかをイメージした屋根の形状が特徴的であり、扇田駅利用の大きなウエートを占める高校生のための学習スペースも設けられた設計となっております。しかし、なぜかトイレは設置されることなく現在に至っており

ます。利用頻度が低いと判断されたのかどうかは定かではありませんが大変残念であり、不便を強いられている事態となっております。地元町内会からもトイレ設置要望が当局に出されていることから多くの市民の声に応えるためにも何らかの対応が必要と思います。私は、仮設トイレなどでも市民の不安と不便が解消できるのであれば、それも一つの方法だと思います。設置場所さえ確保できれば、すぐに解消できる問題と考えます。以上のことから①大館市としてJR側と協議を進めてほしい、②JR側と協議が不調の場合には、市単独でも設置の方向で検討していただきたい。この2点について当局のお考えをお示してください。

2点目、大館市の公園遊具についてであります。比内町達子森公園には、春から秋まで多くの子供たちが遊びに来ていることが知られております。全面芝生張りの広い運動場とアスレチック遊具などもあり、その快適性によるものと思います。しかし、残念なことに一番人気のあるアスレチック遊具には春から秋までロープが張られ「入るな危険」の看板が立って使用できないままでした。知り合いの方から「春・夏・秋と三度孫と行ったのだけれど、いつから使えるのですか」と言われました。小さい子供たちの夢を壊さないためにも一日も早い改修を希望するものです。以上のことから①遊具の更新・整備計画は策定されているのか、②安全・保守点検などは、どのように行われているのかの2点について、当局の考えをお示してください。

3点目、達子森野球場の課題についてであります。秋田県高校野球連盟では、県北大会などを能代市と大館市、2市の輪番制で開催されてきました。大館市で主催の場合、これまで達子森・田代の2球場が会場となっております。しかし、達子森野球場の駐車場に問題があるとして、ここ数年使用されていないのが実情となっております。このような事態を解消するためにも整備計画を早く策定することが必要と考えます。このままでは宝の持ち腐れ状態になってしまいます。達子森野球場バックスクリーン後方には、平成元年の旧比内町時代に宅地造成を目的として、民間から取得した1万5,393平方メートルの広大な土地があります。約3,000万円を投じて購入したこの土地は、現在大館市の工事現場から出る残土置き場、通称大館市ストックヤードとして使用されています。大変もったいない使い方だと感じています。この土地を有効活用することで駐車場問題は最小経費で解消できると思います。大館の高校球児が夏の甲子園に出場することが大館市民の悲願でもあります。一日も早い課題解消のためにも当局の御英断を心から期待するものであります。以上のことから①駐車場が少なく狭い理由から高校野球大会の開催が見送りになっている現状を把握しているのか、②駐車場拡張整備計画の考えについての以上2点について、当局の考えをお示してください。市長も私たちも任期はあと1年となりました。平成30年度における大館市総合戦略に基づく主要4施策「ひとつづくり」「暮らしづくり」「ものづくり」「物語づくり」の着実な実行・実現のため、お互いに力を合わせて頑張りましょう。最後に、ことし3月末で退職されます皆様、長い間大変御苦労さまでした。今後も市政発展のため御尽力くださいますようお願い申し上げます。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの藤原議員の御質問にお答えいたします。

1点目、JR扇田駅前にトイレ設置の要望が多いが、①大館市としてJR側と協議を進めてほしい、②JR側と協議不調の場合には、市単独でも設置の方向で検討していただきたいの2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。JR花輪線扇田駅につきましては平成24年の駅舎改築に伴い、JRから駅舎トイレ撤去の方針が示されました。市では地元住民やまちづくり協議会の意向を踏まえ、JRに対しトイレの設置について要望しておりましたが、JR側からは「トイレの利用者数が少なく、数年に1回程度のくみ取りの実績などからトイレは設置しない」との回答を得ております。一方、藤原議員御提言の市単独によるトイレの新設につきましては、多額の費用負担を考慮すると難しいところではありますが、JR花輪線は地域にとって欠かすことのできない公共交通インフラであり、将来的には鉄路のまさに県北の東の玄関として位置づけるべきとの考えを持っておりますので簡易トイレ等の設置についてJRと協議・検討をしてみたいと思いますので御理解をお願いいたします。

2点目、大館市の公園遊具について。①更新・整備計画は策定されているか、②安全・保守点検などは、どのように行われているかの2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。市では、公園施設の機能保全のため平成21年度に大館市公園施設長寿命化計画を策定しており、28年度には計画の検証とあわせてバリアフリー化の視点を加えた変更計画を策定しております。変更計画の策定に当たっては、市内にある都市公園33カ所について、遊戯施設のほかに園路広場やトイレ等の管理施設を対象として、専門技術者により劣化や損傷等の健全度調査を実施しております。また、計画策定と同時に事故等の危険性のある施設については利用禁止としたところがあります。一方、遊具の点検につきましては、担当職員が毎年雪解け後に施設の一斉点検を実施しているほか、月1回の安全保守点検を行っております。担当職員は、専門技術者からの指導や行政職員向けの遊具等安全講習の受講などにより専門知識を習得しており、安全管理に努めているところであります。なお、藤原議員御指摘の使用禁止となっている達子森公園の木製アスレチック遊具につきましては、30年度予算に解体費を計上し、来年度早期に解体する予定としておりますが、ほかの使用禁止遊具については、禁止期間を表示するよう努めるとともに、老朽化などにより危険性が高い遊具等については速やかに撤去してまいりますので御理解をお願い申し上げます。

3点目、達子森野球場の課題について。①駐車場が少なく狭い理由から高校野球大会の開催が見送りになっている現実を把握しているか、②駐車場拡張整備計画の考えについての2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。藤原議員のスポーツ全般に対する御理解と御協力に深く感謝を申し上げます。また、ランナーでありスキーヤーでもある藤原議員の公私たがわぬ御指導には感謝申し上げたいと思います。達子森野球場につきましては、1塁スタンド側に駐車場があるものの、ファウルボールが駐車車両に当たるなどの事故があっ

たことから安全対策として防球フェンスを設置したほか、硬式野球の大会で使用する場合は、駐車場の利用を制限し周辺の市有地・空き地等の利用をお願いしてきたところであります。今回藤原議員の質問で初めて事情を認識したわけですが、平成22年度までは達子森野球場でも県北地区の高校野球大会が開催されておりました。しかし、駐車場の収容台数が少ないため、現在は開催を見送っているとうかがっております。しかしながら福原市政は「スポーツを通じて人が育つ、まちも育つまちづくり」を掲げております。開催の誘致を見据え、議員御提案の近隣のストックヤードの活用に関して、ストックヤードの代替地確保や保管している工所用残土の搬出などを含めて前向きに検討する必要があると考えております。この点につきましても御理解をお願いいたします。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○議長（佐藤久勝君） 以上で、本日の一般質問を終わります。

次の会議は、明3月6日午前10時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後2時47分 散 会
